

インフルエンザ

2015年6週の県全体の定点当たり報告数は、5週の28.42から減少し19.60となった。減少傾向にあるものの報告数が多い状況が続いており、今後の流行状況に注意が必要である。

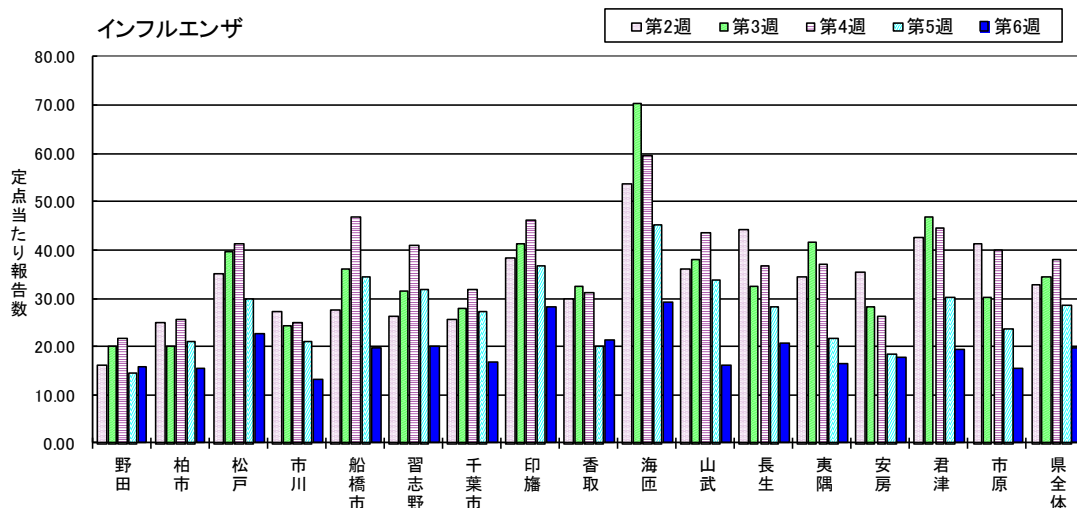
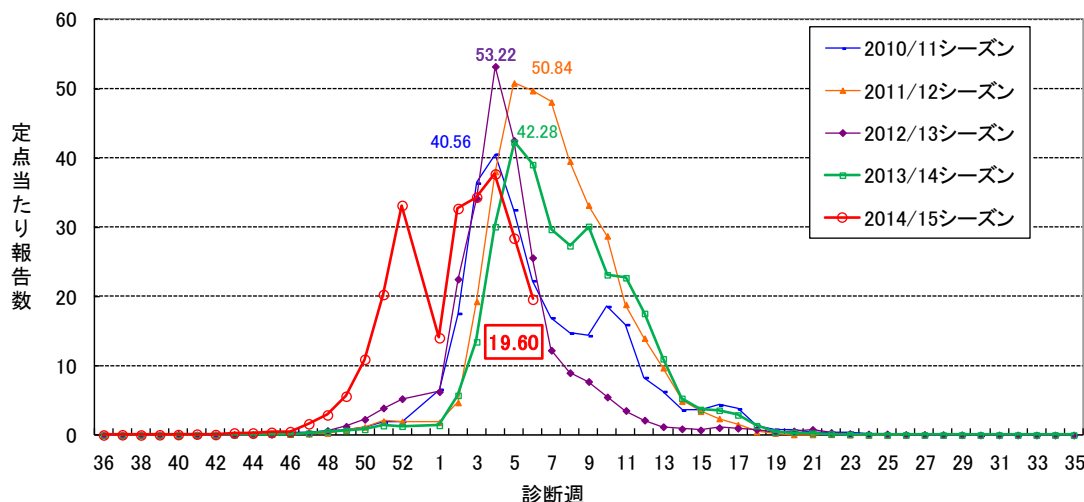
千葉県健康福祉部疾病対策課 インフルエンザについて
 URL: <http://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/index.html>

保健所別の定点当たり報告数は、全保健所管内で警報レベルの30未満となった。定点当たり報告数が多かったのは、海匝(29.14)、印旛(28.13)、松戸(22.68)、香取(21.50)、長生(20.57)、習志野(20.00)だった。

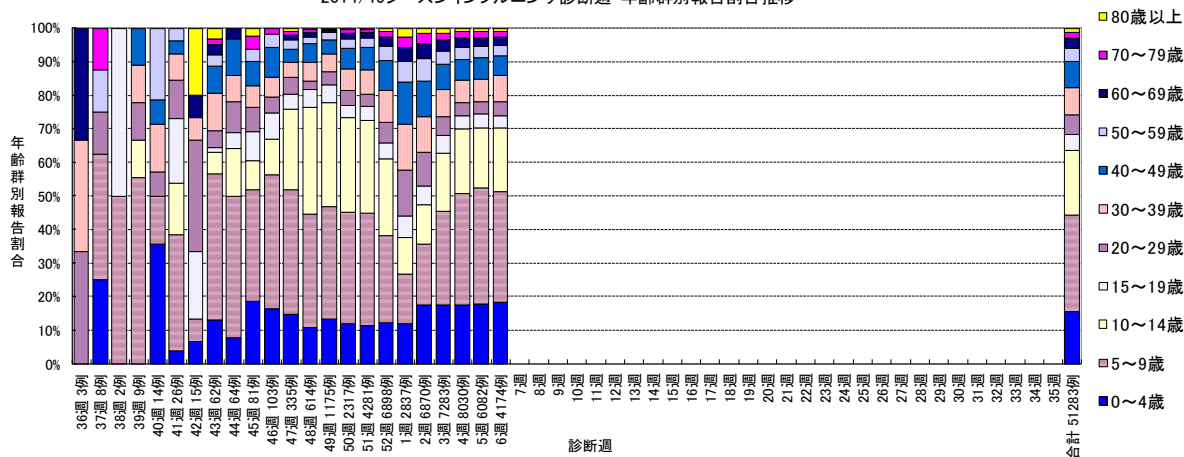
2015年6週の年齢群別報告割合は、5～9歳33.2%、10～14歳18.8%、0～4歳18.2%が多く、2014/15シーズン全体では、5～9歳28.6%、10～14歳19.3%、0～4歳15.6%に多い。

2015年6週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、4,006例中A型3,749例(93.6%)、B型226例(5.6%)、A and B型3例(0.1%)、A or B型28例(0.7%)だった。全体の報告数は減少しているが、B型の報告数が5週の198例から226例に増加し、報告割合も5週の3.4%から5.6%に増加した。2014/15シーズン合計では、47,859例中A型46,465例(97.1%)、B型1,004例(2.1%)、A and B型16例(0.0%)、A or B型374例(0.8%)だった。

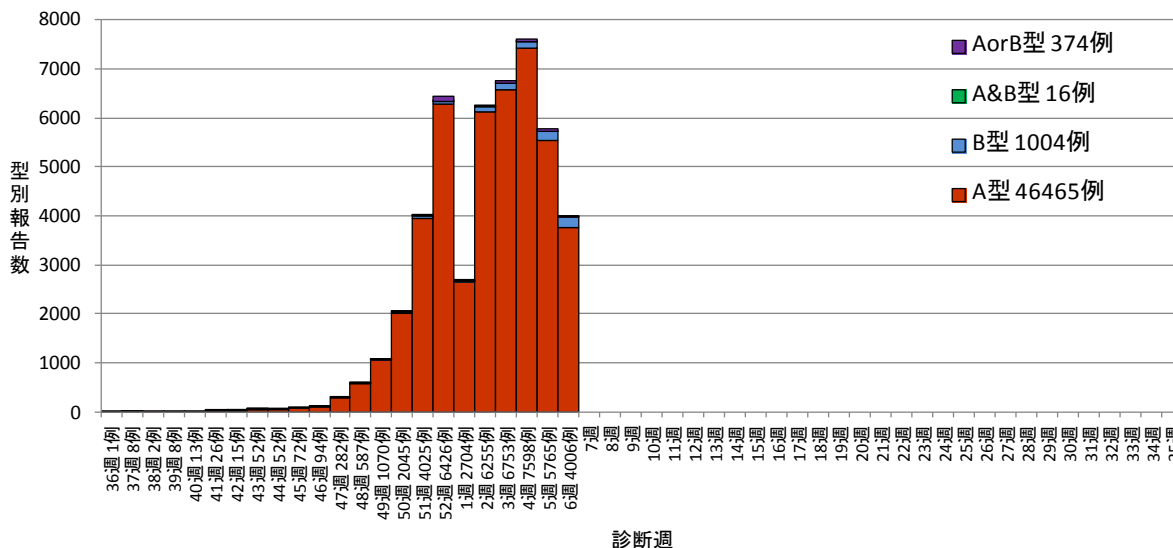
千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数



2014/15シーズンインフルエンザ診断週・年齢群別報告割合推移



2014/15シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告数



2014/15シーズン千葉県におけるインフルエンザB型迅速診断報告数(別掲)

